

## 中等教育におけるアクティブラーニング型授業の展開

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科)

<http://smizok.net/>

E-mail [mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp](mailto:mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp)

# AL型授業のモデル校として指導する桐蔭学園

YouTube動画「桐蔭学園のALの挑戦」

2015年6月に作成



(2016年7月製作)

【改革2年目のさらなる進化】桐蔭学園 アクティブラーニング型授業の改革

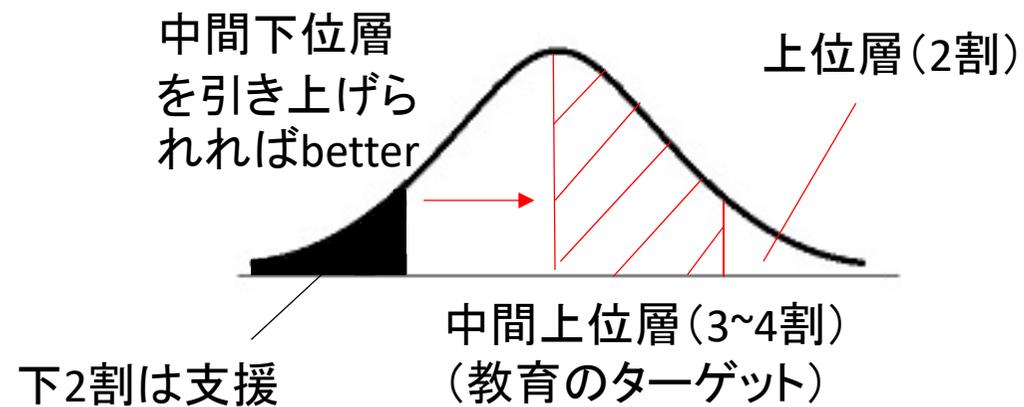
2016年7月に作成



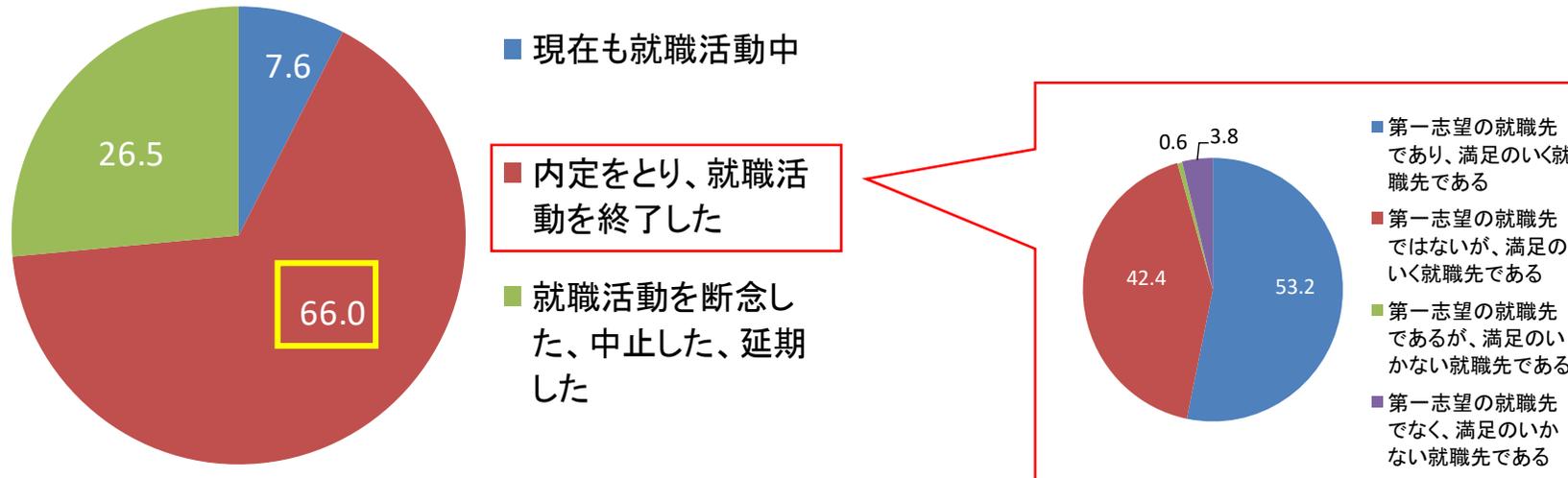
下記からご覧になれます(「桐蔭学園」「アクティブラーニング」と入れて検索)。

<https://www.youtube.com/watch?v=Mkd8VliKJ-U>

# ビデオの時間分雑感です



# 京都大学の事例



京都大学FD研究検討委員会・高等教育研究開発推進センター『京都大学自学自習等学生の学習生活実態調査報告書』2013年3月

<http://www.fd.kyoto-u.ac.jp/resource/2013jigaku.pdf>

# 「留年・中退 京大「やり直しきく」」

## 「京大では入学生の約2割が留年するが・・・」

## 「15年前に読んでいたら大学やめなかつた」などと評価する反応が大半だ

### 留年・中退 京大「やり直しきく」

「やり直しがきく社会をみんなでつくる」と。京大が留年や中退に悩む学生向けにメッセージをホームページ(HP)で紹介したところインターネットで拡散され、「温かみがある」「救われる」と反響を呼んでいる。

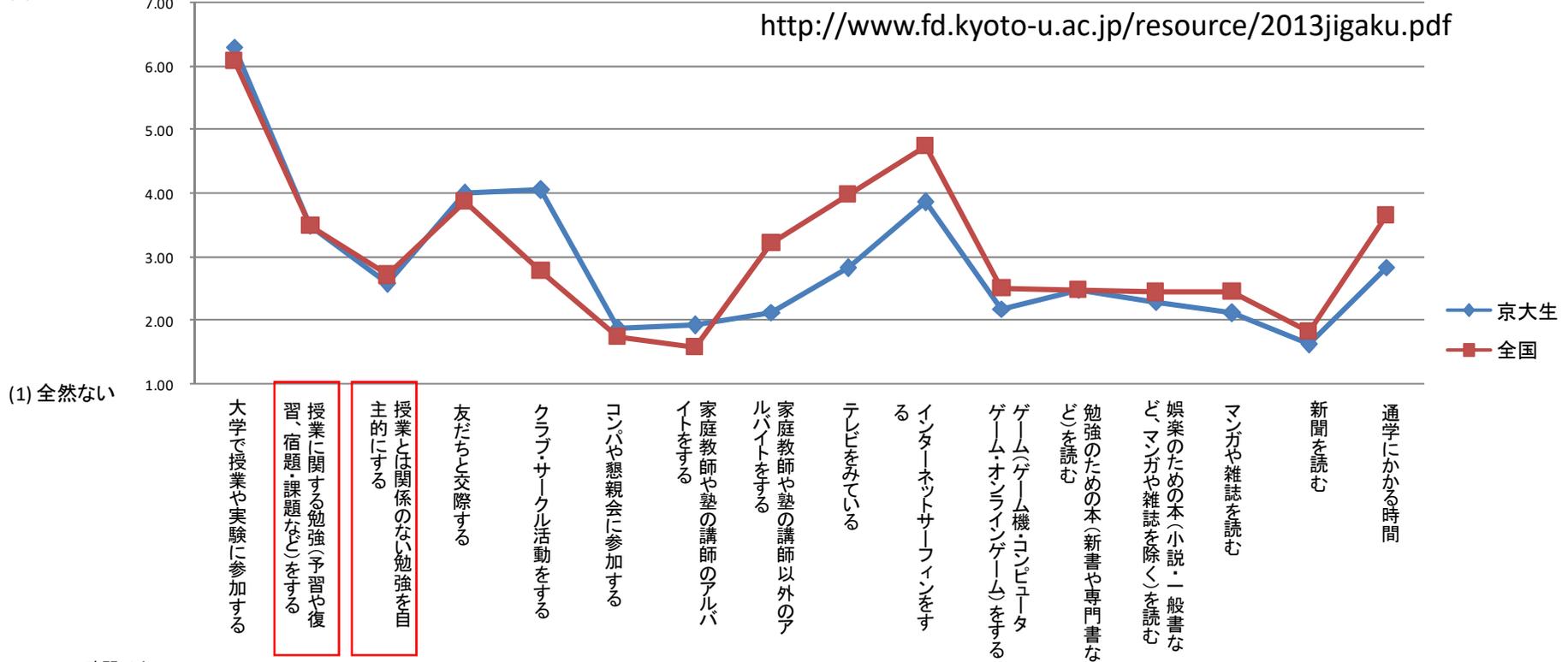
メッセージは、京大学生総合支援センター・カウンセリングルームが昨年11月から掲載。京大では入学生の約2割が留年するが、最近では深刻に考える学生の相談が増えているという。HPでは、留年した学生の特徴として▽家族や友人に隠し、孤立する▽「楽しむ権利がない」と考える――などと説明。「留年や中退は多くの人が経験するごく普通の出来事」などと励ましている。さらに、米アップル創業者のステイブ・ジョブズ氏や米マイクロソフトのビル・

### HPで激励 反響呼ぶ

ゲイツ氏らも中退したとし、「人生の岐路において、絶対に失敗のない完璧な決断などありえない。迷って当たり前、たじろいで当たり前です」と訴える。ツイッターなどで広がったのは今月に入ってから。「甘えすぎ」とする声はあるが、「15年前に読んでいたら大学やめなかつた」などと評価する反応が大半だ。担当の杉原保史教授(臨床心理学)は「学生だけではなく、生きづらいつ感じている若い人たちの悩みが和らぐことにつながれば」と話している。

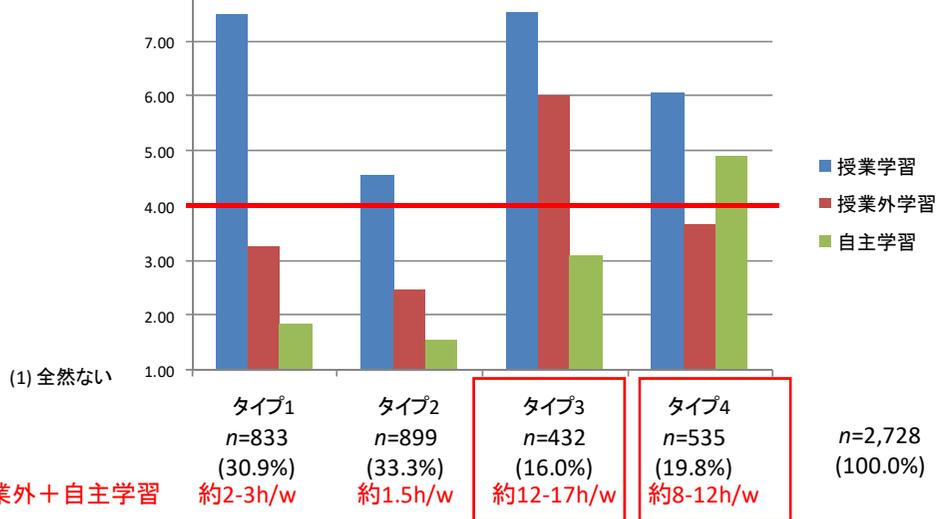
<http://www.fd.kyoto-u.ac.jp/resource/2013jigaku.pdf>

(8) 21時間以上



(1) 全然ない

(8) 21時間以上



(1) 全然ない

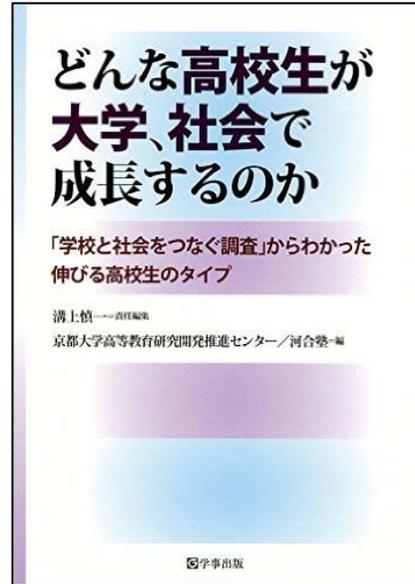
影響：  
全学、部局で検討中

# リクエスト

- ① 大学人の立場から見て優れた生徒とは？
- ② 結局、何をやればアクティブラーニング型授業となるのか？

# Contents

- ① 大学人の立場から見て優れた生徒とは？
- ② 結局、何をやればアクティブラーニング型授業となるのか？



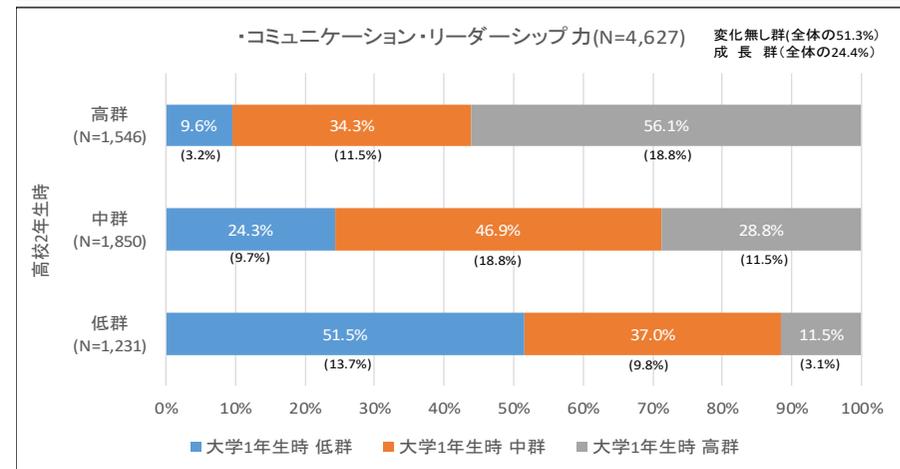
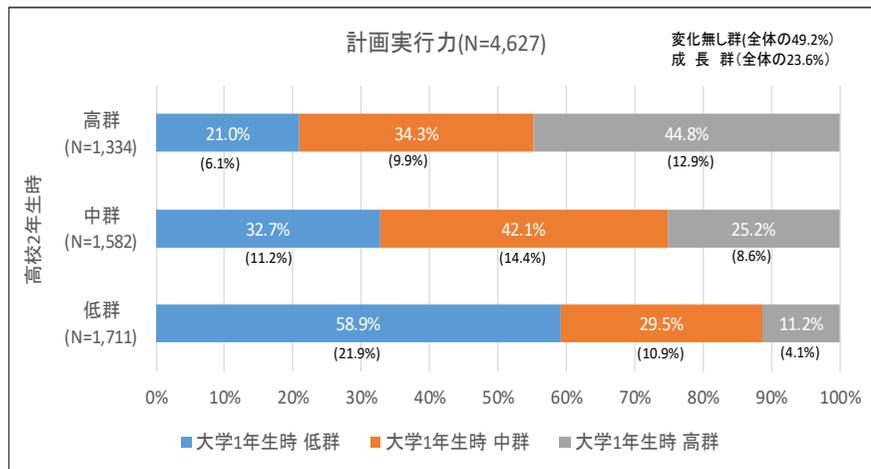
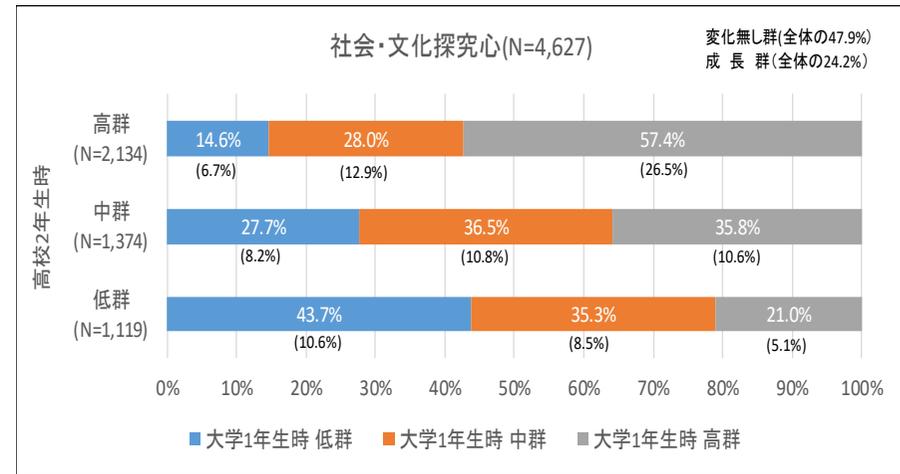
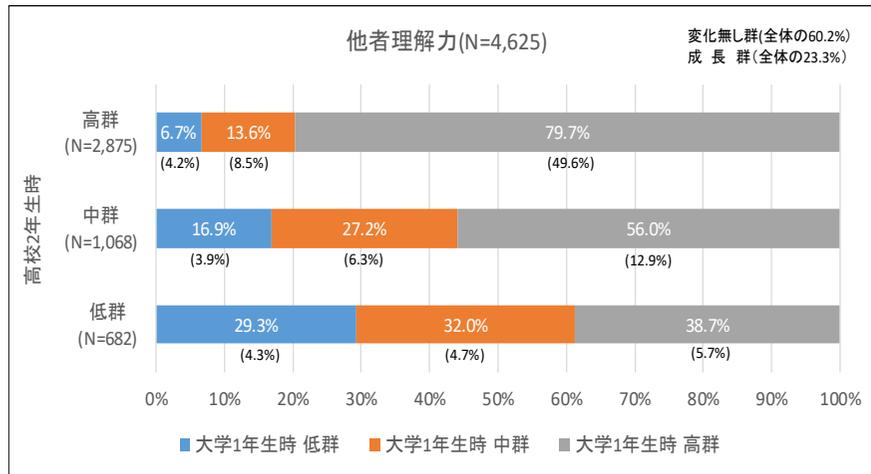
溝上慎一 (責任編集) 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾 (編) (2015). どんな高校生が大学、社会で成長するのかー「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプー 学事出版

ウェブサイト:  
 京都大学・河合塾「学校と社会をつなぐ調査」  
<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/trans/>

2時点目成果報告会 (2016年9月24日@京都キャンパスプラザ):  
 (ダイジェスト版報告書PDFは上記のウェブサイトにあります)



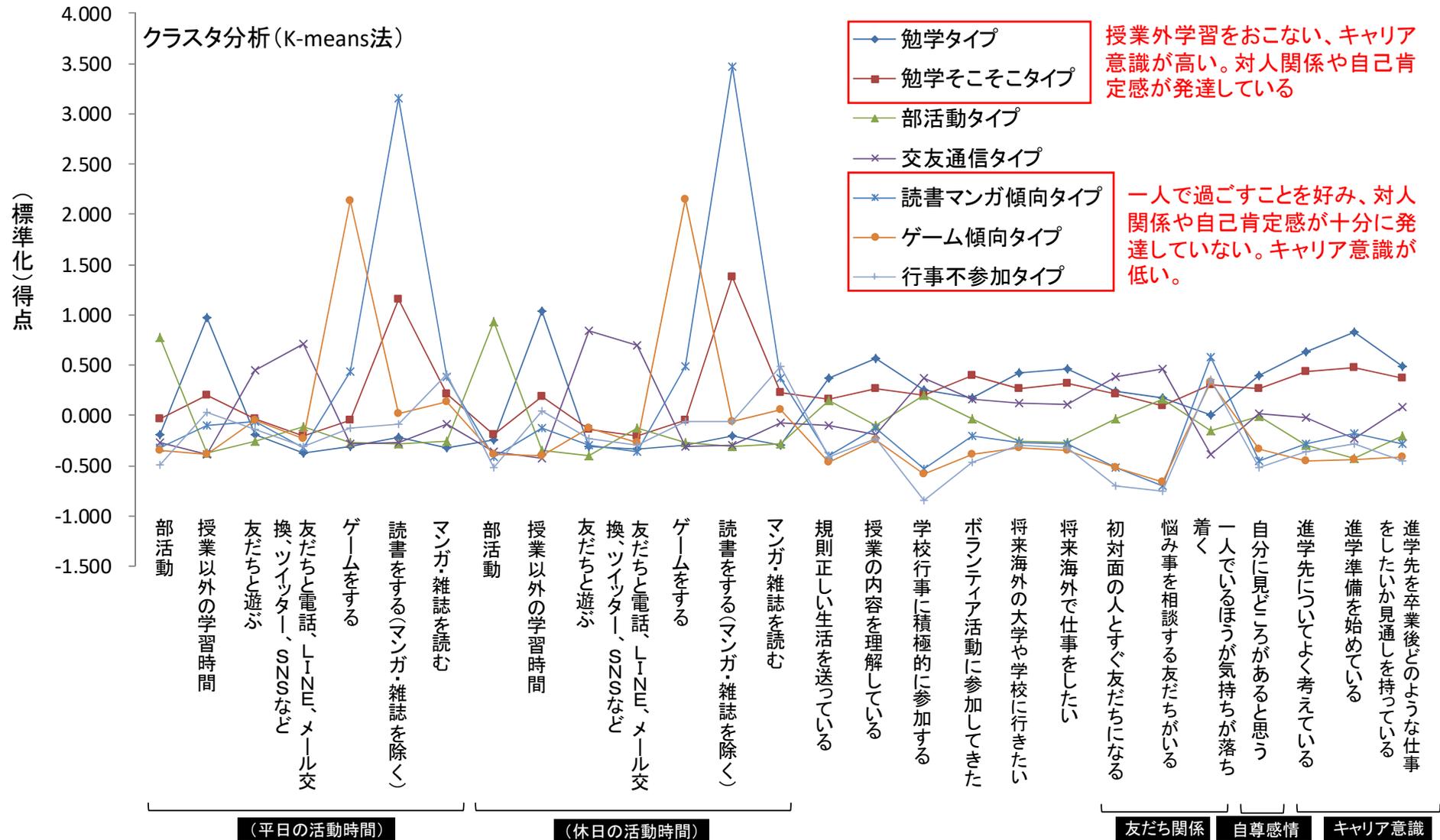
# 半数の者は高校から大学にかけて資質・能力は変わらない



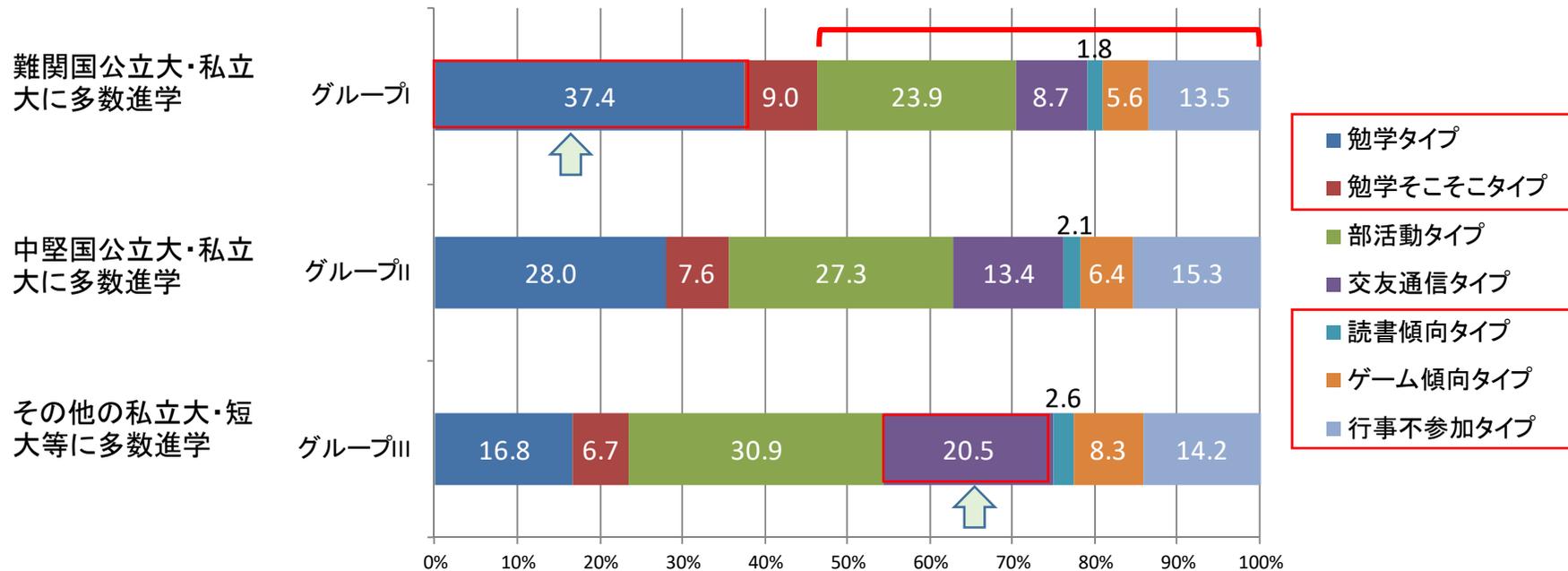
「変化無し群」を高→高、中→中、低→低とすると、**変化無し群は全体の47-60%**であった。これより、高校2年生の時の資質・能力は変化しにくいことが明らかとなった。また、「成長群」を低→中or高、中→高とすると、**成長群は全体の23-24%**であった。

ダイジェスト版報告冊子にこの図と説明があります

# 7つの生徒タイプが大学生の姿にある程度影響を及ぼす



# 大学進学グループとの関連



「グループ分類は、河合塾の調査による」

- ・難関大学への進学実績が高いグループで「勉学タイプ」が多く、進学実績が比較的高くないグループの2倍以上の割合を有する。他方で、「交友通信タイプ」は、進学実績が比較的高くないグループで多く、進学実績が高いグループの2倍以上の割合を有する。「行事不参加タイプ」は、進学実績に関係なく、どのグループにも10～15%はいる。
- ・グループ1でも、部活動タイプ～行事不参加タイプが過半数以上いる。彼らが受験勉強を短期間で仕上げ難関大学へ進学する場合、彼らの大学生になってからの技能・態度やキャリア意識は大丈夫か。

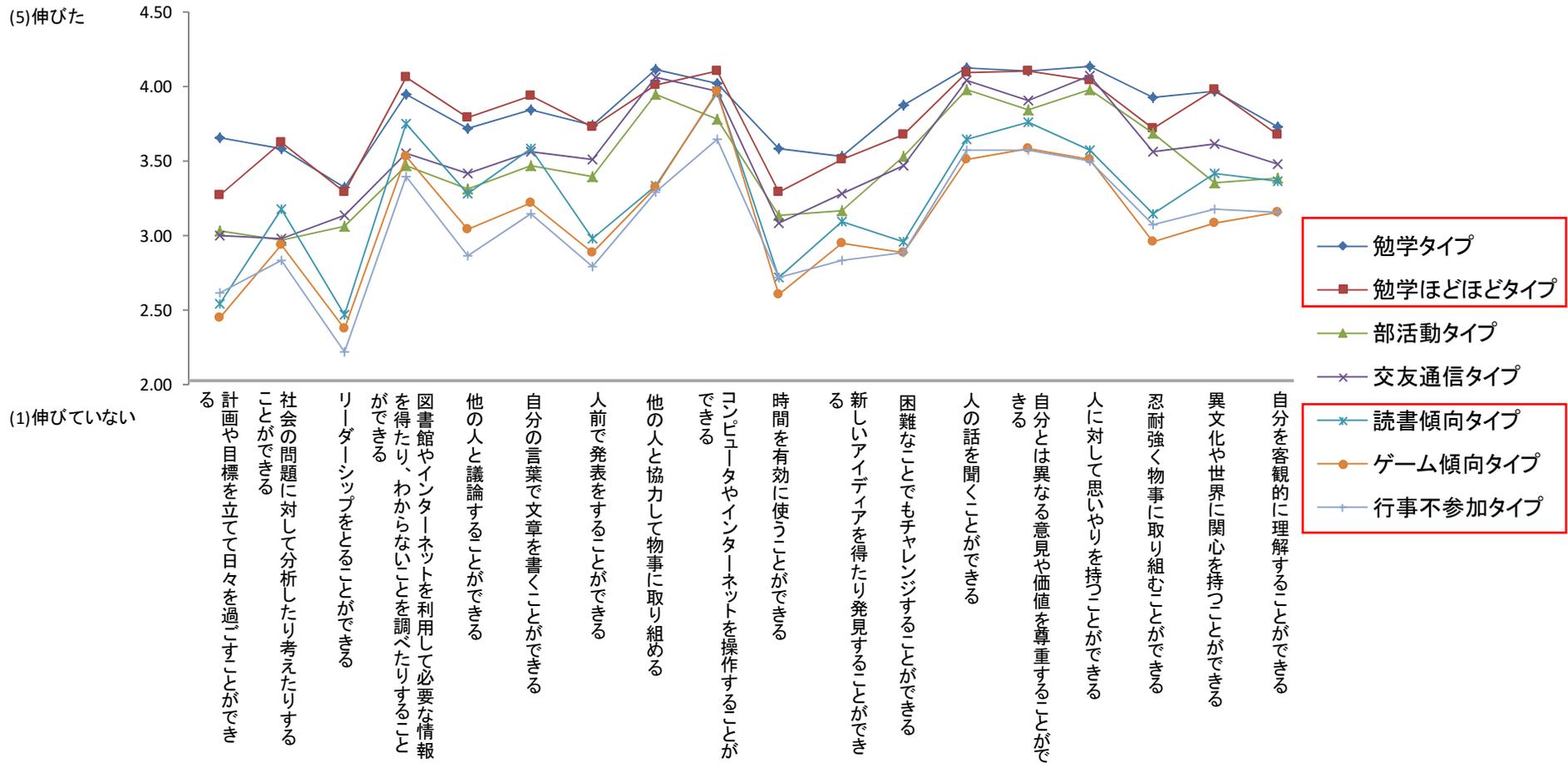
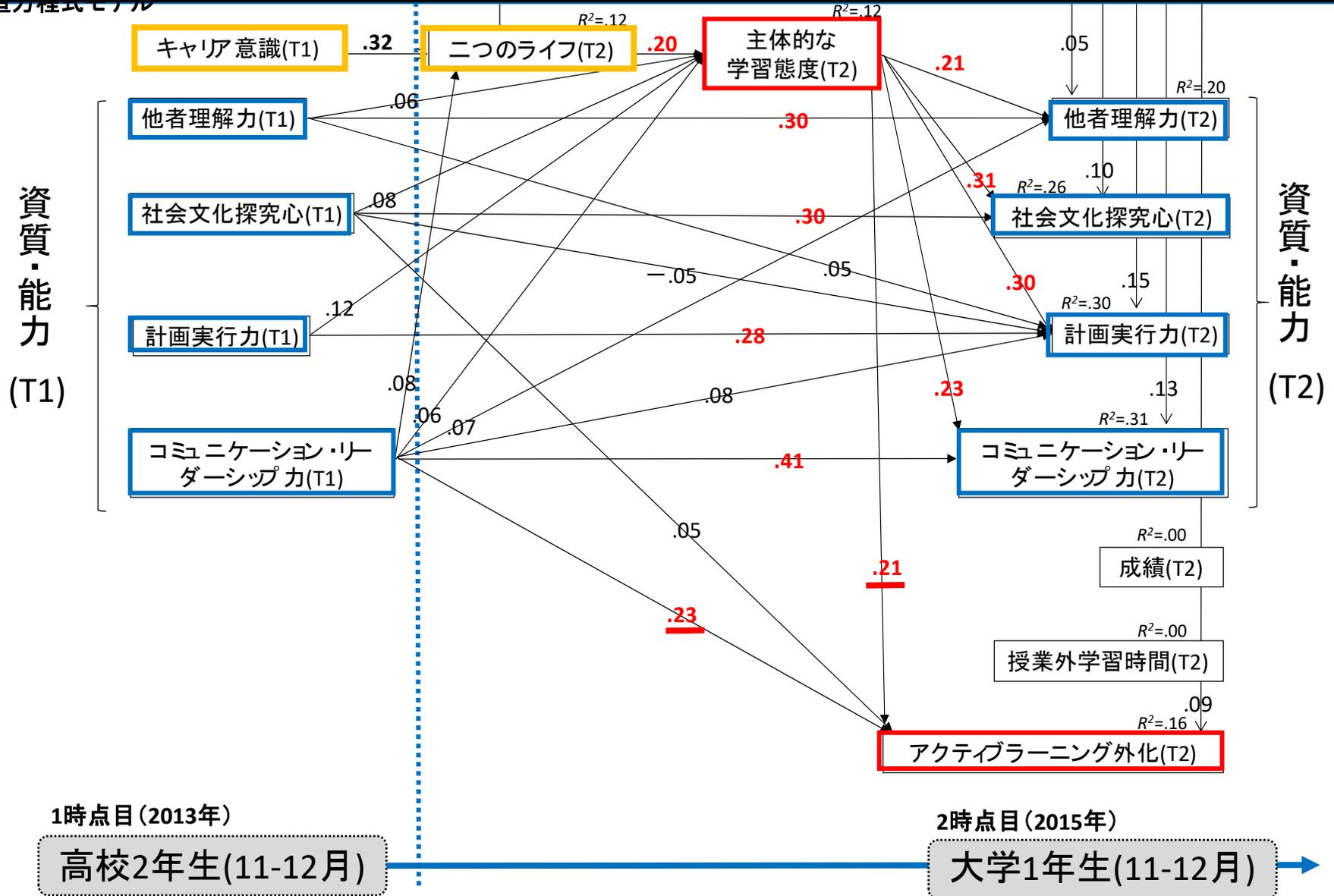


図 生徒タイプと技能・態度の伸びとの関連

・「他の人と議論することができる」「人前で発表することができる」は、対人関係が得意くらいでは身につかない。学習（アクティブラーニング）との深い関連性。  
 ・「異文化や世界に関心を持つ」も学習と関連。

# 統計的には、高校2年時の学習・キャリア・資質能力が 大学1年時の学習・キャリア・資質能力を有意に規定するという結果



ダイジェスト版報告冊子にこの図と説明があります

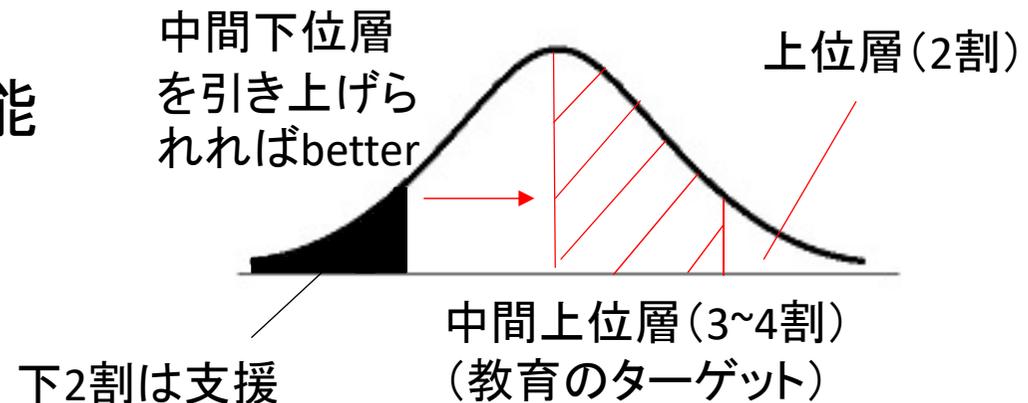
# 問いに答えて

## 「大学人の立場から見て優れた生徒とは？」

- 自律的な学習者
  - ✓ 主体的な学習態度（講義の受け方、レポート・プレゼンの取り組み方）
  - ✓ 授業外学習
- キャリア意識
  - ✓ 二つのライフ（将来の見通し、理解実行）  
Future Life      Present Life
- 対人関係・コミュニケーション

+

基礎的な知識・技能  
（教科学力）



# 「留年・中退 京大「やり直しきく」

## 「京大では入学生の約2割が留年するが・・・」

## 「15年前に読んでいたら大学やめなかつた」などと評価する反応が大半だ

### 留年・中退 京大「やり直しきく」

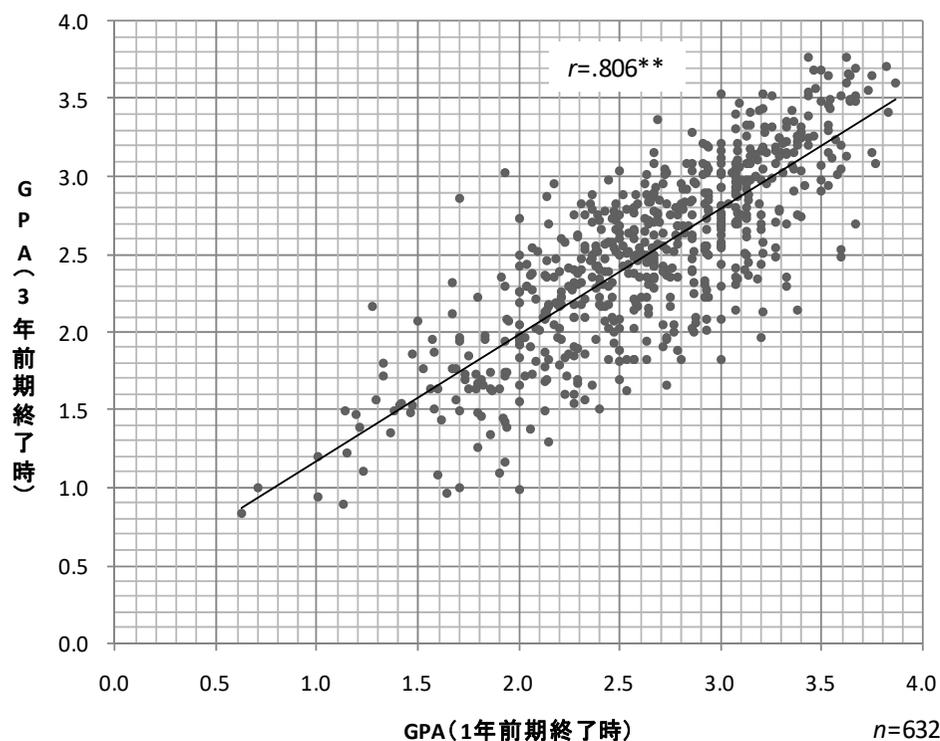
「やり直しがきく社会をみんなでつくりたい」。京大が留年や中退に悩む学生向けにメッセージをホームページ(HP)で紹介したところインターネットで拡散され、「温かみがある」「救われる」と反響を呼んでいる。

メッセージは、京大学生総合支援センター・カウンセリングルームが昨年11月から掲載。京大では入学生の約2割が留年するが、最近では深刻に考える学生の相談が増えているという。HPでは、留年した学生の特徴として▽家族や友人に隠し、孤立する▽「楽しむ権利がない」と考える――などと説明。「留年や中退は多くの人が経験するごく普通の出来事」などと励ましている。さらに、米アップル創業者のステイブ・ジョブズ氏や米マイクロソフトのビル・

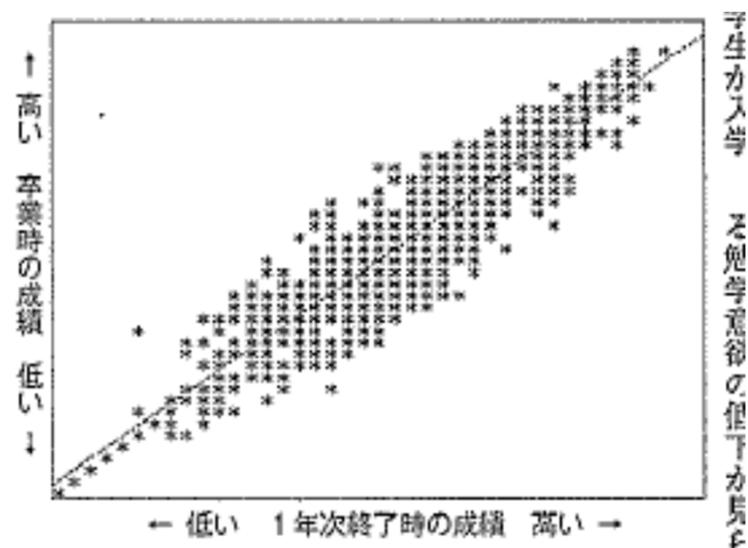
### HPで激励 反響呼ぶ

ゲイツ氏らも中退したとし、「人生の岐路において、絶対に失敗のない完璧な決断などありえない。迷って当たり前、たじろいで当たり前です」と訴える。ツイッターなどで広がったのは今月に入ってから。「甘えすぎ」とする声はあるが、「15年前に読んでいたら大学やめなかつた」などと評価する反応が大半だ。担当の杉原保史教授(臨床心理学)は「学生だけではなく、生きづらいつ感じている若い人たちの悩みが和らぐことにつながれば」と話している。

# GPAが変わらない



(\*前 大阪府立大学高等教育開発センターIR顧問)



【特別レポート】(東京理科大)  
「大学卒業時の成績が入学後わずか2ヶ月後の出席状況と相関している」  
\*図は、成績の相関を示す

『学研・進学情報』2016年11月号  
(pp.12-15)

2

## Reference

- ・溝上慎一「経験や勘からデータ重視へと教学改善を跳躍させるIR」(進研アド『Between』2013年10-11月号)
- ・中井俊樹・鳥居朋子・藤井都百(編)(2013). 大学のIR Q&A 玉川大学出版部

# Contents

- ① 大学人の立場から見て優れた生徒とは？
- ② 結局、何をやればアクティブラーニング型授業となるのか？

# これまでの講義型授業が



(書く・話す・発表する)

アクティブラーニング型授業(講義+AL)へ変わります

1

# 大学での学びも変わってきています



講義



演習・ゼミ



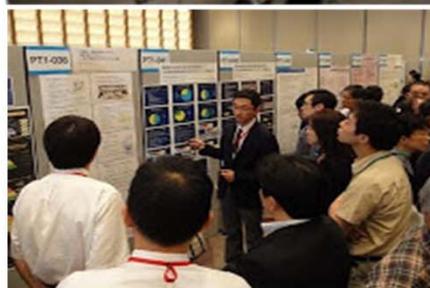
講義のなかでもAL



プレゼンテーション

# なぜ今アクティブラーニング型授業の改革か

学校から仕事・社会へのトランジション(移行)課題の解決のため！



**個と協働のバランスが大事！**

(知識・思考力等) (チームワーク、議論等)

# 問いに答えて 「結局、何をやればアクティブラーニング型授業になるのか？」



ただし、落としどころ(学習成果)があるでしょう！  
(松下佳代「ディープ・アクティブラーニング」)



講義 + アクティブラーニング (AL) = **アクティブラーニング型授業**  
(聴く) (書く・話す・発表する)

\*認知プロセスの外化: 知覚・記憶・言語・思考など

傘概念 (umbrella term)

including 協同学習、ジグソー法、PBL、LTD話し合い学習法など

## Reference:

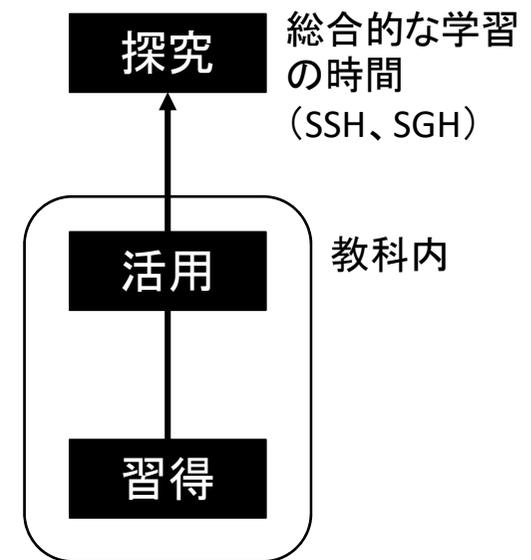
- ・溝上慎一 (2014). アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換 東信堂
- ・松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター (編) (2015). ディープ・アクティブラーニングー大学授業を深化させるためにー 勁草書房

# 教育課程企画特別部会『論点整理』(2015年8月26日)

## 課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び (いわゆる「アクティブ・ラーニング」)

### アクティブ・ラーニングを通して目指される学習

- i) **習得・活用・探究**という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた**深い学び**の過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との**協働**や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、**対話的な学び**の過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、**主体的な学び**の過程が実現できているかどうか。



# 教育課程部会『審議のまとめ』(2016年8月26日)

## 主体的・対話的で深い学びの実現 (「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善) について (イメージ)

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすること

### 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

#### 【例】

- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート(仮称)」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・  
人間性等の涵養

生きて働く  
知識・技能の  
習得

未知の状況にも  
対応できる  
思考力・判断力・表現力  
等の育成

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

### 【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

#### 【例】

- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



### 【深い学び】

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「**見方・考え方**」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

#### 【例】

- 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



## 深い学び

各教科等で習得した知識や考え方を活用した、「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成したり、思いを元に構想・創造したりする「深い学び」が実現できているか。



(例)

- 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

深い学び = (深い理解を前提として) 資質・能力を育てる学び

### Reference:

• Bellanca, J. A. (Ed.) (2015). Deeper learning; Beyond 21st century skills. Bloomington: Solution Tree Press.

学習プロセスの観点から見た「アクティブ・ラーニング」の視点(主体的・対話的で深い学び)  
個→協働→個のサイクル



個の学習

協働の学習

個の学習

- ・ふり返り
- ・まとめ
- ・次回の冒頭で  
小テスト



# 表現の観点から見た「アクティブ・ラーニング」の視点(主体的・対話的で深い学び)

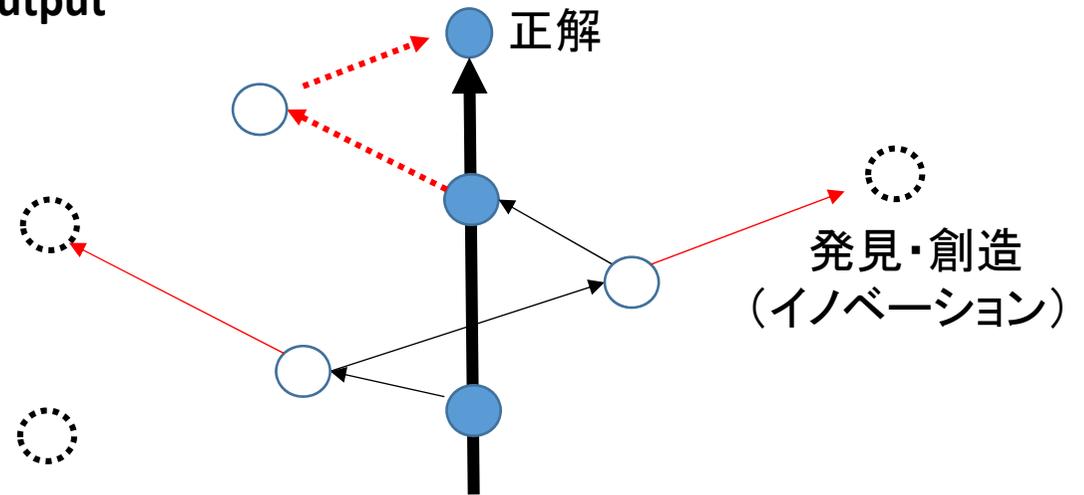


講義+アクティブラーニング  
(聴く) (書く・話す・発表する)

Input

Output

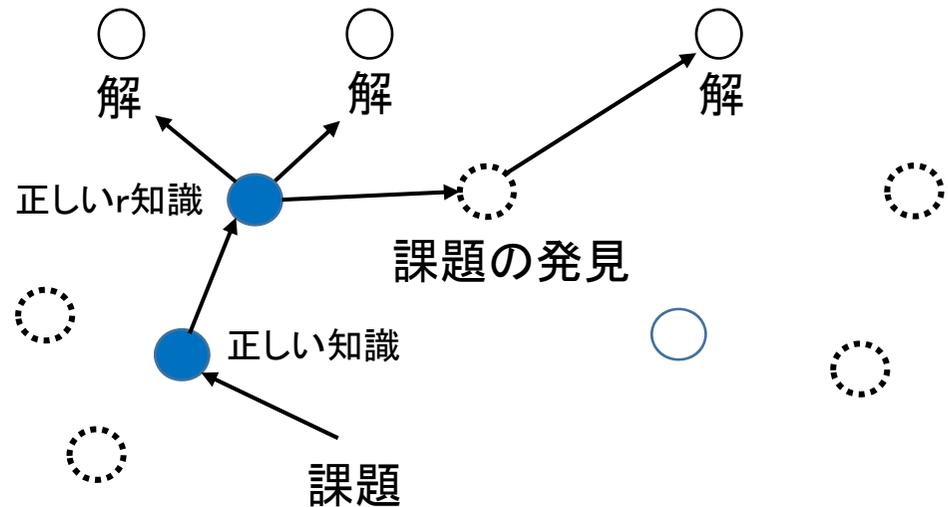
Output



(練習・演習)問題

頭の整理、思考力を育てる

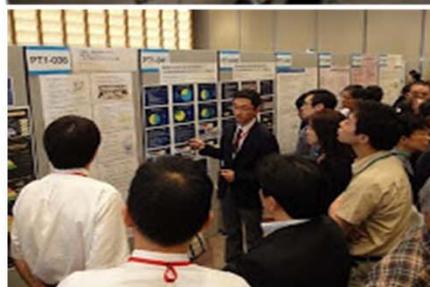
(思考:あることと他のことを繋ぎその根拠や論理を考えること)



正解がない問題に取り組み解決する(探究・問題解決)

# なぜ今アクティブラーニング型授業の改革か

学校から仕事・社会へのトランジション（移行）課題の  
解決のため！ 教授パラダイムから学習（と成長）パラダイム



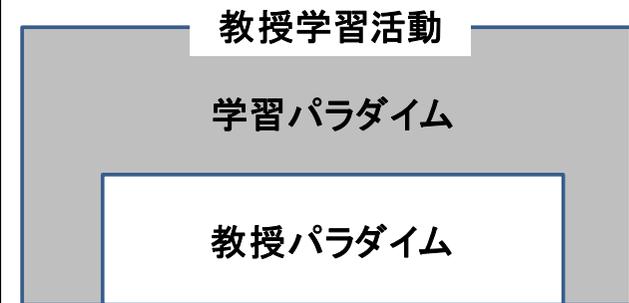
個と協働のバランスが大事！

（知識・思考力等）（チームワーク、議論等）

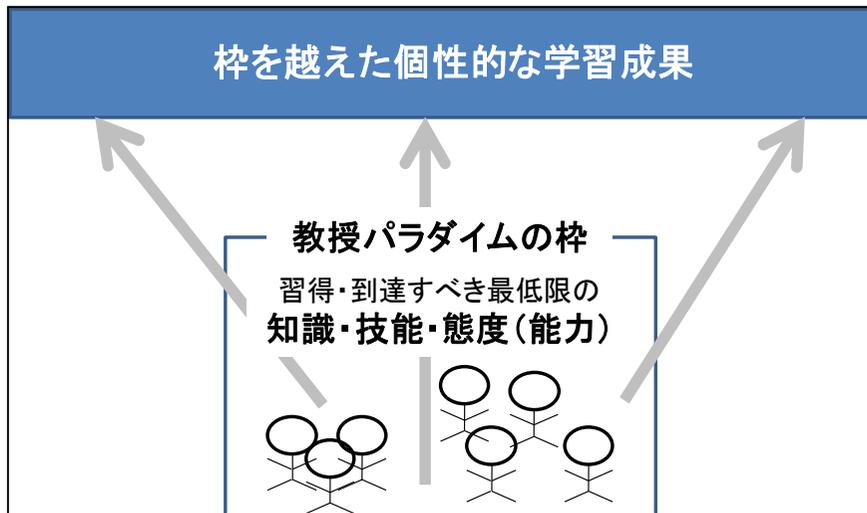
# 教授パラダイムから学習と成長パラダイムへ

## 特徴

教授パラダイム	学習パラダイム
教員から学生へ	学習は学生中心
知識は教員から伝達されるもの	学習を産み出すこと
	知識は構成され、創造され、獲得されるもの



## 個性化を導く学習と成長パラダイム



### 教師の役割:

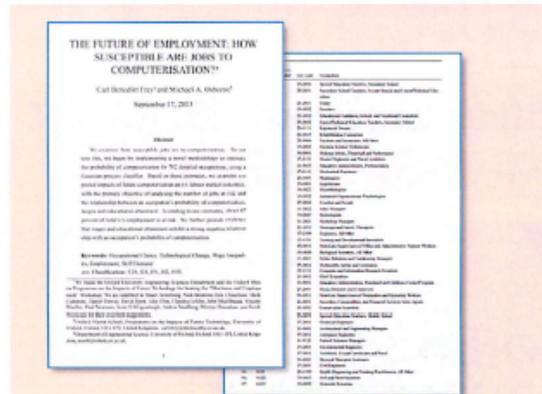
- (1) 科目・教科の専門家 (Teacher or knowledge/Information Provider)
- (2) ファシリテーター (facilitator)

### 講義 (Teacher)

+ アクティブラーニング (facilitator)  
= アクティブラーニング型授業

# 変わる仕事(人工知能)

## ◎技術革新によって失われる職業・新たに生まれる職業



### オックスフォード大学研究事例

「今後20年間ですべての仕事の47%が自動化される可能性がある」



### デューク大学の研究

「2011年度に小学生に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」

今は存在しない職業への準備＝「21世紀型スキル」の育成が急務  
情報化によって生まれる”新しい職業”に適した”新しい教育”とはどのようなものか



三菱東京UFJ銀行(大阪)  
人型ロボット「NAO(ナオ)」



金沢駅で試行的に設置される  
ペッパー君

### ポイント:

- ・単純作業、知っていれば誰でもできる仕事は無くなるか、賃金等労働条件が悪くなる
- ・その人独自の能力や個性が人材としての価値となる

ご清聴有り難うございました

## Contents

- ① 大学人の立場から見て優れた生徒とは？
- ② 結局、何をやればアクティブラーニング型授業となるのか？

# 興味があればお読みください

溝上慎一 (2014). アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換 東信堂

アクティブラーニングを理論的・実践的に包括的に概説した著書。  
第1章:アクティブラーニングとは 第2章:なぜアクティブラーニングか  
(教えるから学ぶへ、情報・知識リテラシー) 第3章:さまざまなアクティブラーニング型授業(ピアインストラクション、LTD話し合い学習法、PBLなど) 第4章:アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫(ディープ・アクティブラーニング、授業外学習、逆向き設計、反転授業) 第5章 揺れる教授学習観(ラーニングピラミッドの功罪など)



溝上慎一監修 (2016年3月新刊)  
『アクティブラーニング・シリーズ全7巻』(東信堂)

- ・第1巻 アクティブラーニングの技法・授業デザイン  
(安永悟・関田一彦・水野正朗編)
- ・第2巻 アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習  
(溝上慎一・成田秀夫編)
- ・第3巻 アクティブラーニングの評価(松下佳代・石井英真編)
- ・第4巻 高等学校におけるアクティブラーニング:理論編(溝上慎一編)
- ・第5巻 高等学校におけるアクティブラーニング:事例編(溝上慎一編)
- ・第6巻 アクティブラーニングをどう始めるか(成田秀夫著)
- ・第7巻 失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング(亀倉正彦著)



各巻の詳細は[こちら](http://smizok.net/ALflier03-2016.pdf) (<http://smizok.net/ALflier03-2016.pdf>)

(このチラシにある申込書を使えば、全巻セツ11,800円が10,000円で購入できます)

## チューリップMLを作りました

中学高校に関するイベントや研究会の案内を受け取る、あるいは自由に投稿できるチューリップMLを作りました。

全国の中学高校関係者に配信されます。

情報を欲しい方、発信したい方はメンバー登録の上、どうぞご利用下さい。  
<http://kyoto-u.s-coop.net/tulip/index.html>

## 桐蔭学園の「授業見学」のご案内



◆桐蔭学園はAL型授業向上を目指して、外部からの授業見学をいつでも受け付けています。見学したい方は下記にご連絡下さい。

担当： 佐藤透 ([satohru@toin.ac.jp](mailto:satohru@toin.ac.jp))

# 講師プロフィール

<http://smizok.net/>

1970年1月生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手、2000年講師、2003年京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。2014年より教授(現在に至る)。大学院教育学研究科兼任。教育アセスメント室長。京都大学博士(教育学)。



日本青年心理学会常任理事、大学教育学会常任理事、『青年心理学研究』編集委員、『大学教育学会誌』編集委員、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、公益財団法人電通育英会大学生調査アドバイザー、学校法人桐蔭学園教育顧問ほか、大学のAP委員、高校のSGH/SSH指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年心理学(現代青年期、自己・アイデンティティ形成、自己の分権化)と高等教育(学習と成長パラダイム、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジションなど)。著書に『自己形成の心理学－他者の森を駆け抜けて自己になる』(2008世界思想社、単著)、『現代青年期の心理学－適応から自己形成の時代へー』(2010有斐閣選書、単著)、『大学生の学び・入門－大学での勉強は役に立つ!－』(2006有斐閣アルマ、単著)、『高校・大学から仕事へのトランジション－変容する能力・アイデンティティと教育－』(2014ナカニシヤ出版、編著)、『活躍する組織人の探究－大学から企業へのトランジション－』(2014東京大学出版会、編著)、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』(2014東信堂、単著)など多数。